高知に帰って

8月25日、約8カ月の動員生活を終えて川村さんたちは高知に帰ってきました。

懐かしい街や師範学校は空襲を受け、焼け野原になっており、場所を転々としながら勉強し、翌年4月から教壇に立つことになりました。

軍事訓練や学徒動員で戦争一色の学校生活を送った川村さんは十分な勉強ができていませんでしたが、教壇に立ちながら自分で勉強やピアノの練習などをして、55歳まで教員を続けました。

▲昭和56年吉川小学校での集合写真。写真の左が教員時代の川村さん

後世に伝えたい思い「夏雲の彼方に 学徒動員の記」

高知師範学校女子部の卒業生20人は、終戦から38年経った昭和58年に半田市を再び訪れ、工場跡地などを見て回りました。当時を振り返った帰りのバスの中で「戦争を知らない大人たちが多くなった時代に再び私たちの歩いた道を歩かせないように、次の世代に伝えていくために」と発起。それぞれが執筆したものをまとめ、「夏雲の彼方に　学徒動員の記」を昭和59年に発行しました。

この本の中には、当時の学徒動員生活の日記や半田空襲の体験の記録などが書かれており、戦争の悲惨さを後世に伝えるための貴重な資料となっています。

▶空襲の体験だけでなく、毎日の献立など生活の記録も書かれています

川村さんのお母さんが戦争で亡くなった弟を思って詠った歌

やわ肌の熱さも知らず逝きし汝（なれ）を
母はいたみぬ　命終うまで

なぜなぜと　かえらぬことを　繰り返す
この一言も　母なればこそ

近藤　秀子作

▲お母さんが一生を表した歌を川村さんが３冊の本にまとめて製本までしました

戦争は残された人も悲惨な思いをする

川村さんは、お母さんが戦争で亡くなった弟を思って詠った歌をじっと見つめながら「戦争は2度としてはいけない。戦争に行った人もつらいが残された人はそれ以上につらく悲惨な思いをする」と強く語ります。

教員生活約37年間の中で、子どもたちに戦争の話をあまりしたことがないという川村さんですが、2年前には赤岡小学校での平和聞き取り学習で子どもたちに戦争の体験を話してくれています。現在は、語り部の活動はしていません。

若い世代の人たちへ

「今の世の中を見ていると、戦争を2度としてはいけないという思いが薄れてきているのではないか。戦争の足音が聞こえる。毎日を気を付けて、1日24時間はみな平等、どう使うかで5年後、10年後、20年後…が変わってくる。常に努力をしてください。本を読んで知識をつけてください」と戦争を知らない人たちが多くなった今の時代に、戦争が2度と起こらないことを願って若い世代の人へメッセージを送ってくれました。

▲２年前の赤岡小学校での平和聞き取り学習の様子

KONAN夏のイベント2017

熊本から帰ってきた屏風絵は大行列だったそい。詳しくは22ページを見るがよい。

黒子もがんばってます！

海の王子さまお姫さまです♪

たーのしー♪

今年のミスマーメイドに選ばれた近森由里さん(赤岡町)。これから２年間まちの観光ＰＲ活動をしてくれます。

7/15・16 Konan Summer Events 土佐赤岡絵金祭り

土佐絵金歌舞伎では、毎年演じられている「浄瑠璃式三番叟」では10代の若い４人の男女が初舞台に立ち、伝統が引き継がれていく瞬間を目の当たりにすることができました。

7/16 Konan Summer Events マリンフェスティバルYASU

恒例のシーカヤックの体験や鉄人ボートレース、ミスマーメイドコンテストなどが開催され、海、砂浜、ステージまでいずれも大賑わい。好天にも恵まれ、大勢の来場者が夏をさきどりしていました。